

2025年度 災害レジリエンス共創研究プロジェクト

研究課題名	医療的ケア者の個別避難計画の実効性を高めるためのマルチステークホルダーによる協働モデルの開発	研究課題	2-C0
研究代表者氏名	佐藤 健	職名	教授
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所		

研究組織（○：災害研担当教員）	
氏名	所属機関名
○ 佐藤 健	東北大学災害科学国際研究所
船木 伸江	神戸学院大学現代社会学部
佐々木 宏之	東北大学災害科学国際研究所
朴 慧晶	東北大学災害科学国際研究所
北村 美和子	東北大学産学連携機構
藤本 慎也	東北大学災害科学国際研究所

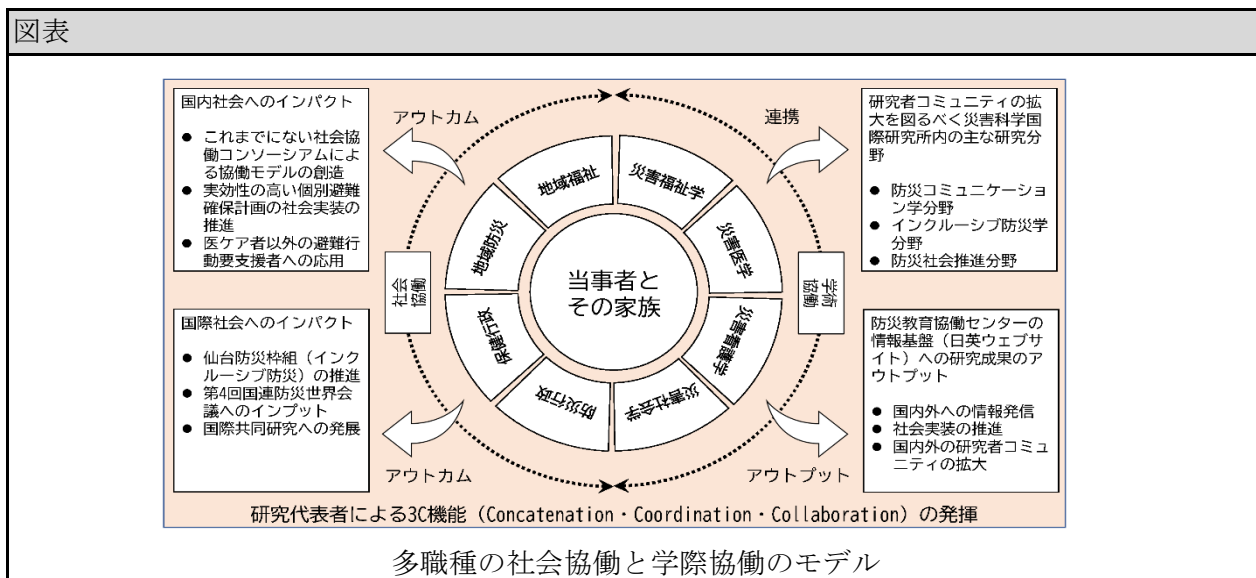
期間	2025年6月1日 ～ 2026年3月31日	配分額	
----	------------------------	-----	--

研究の概要

医療的ケア者とその家族にとって、より身近な地域コミュニティのマルチステークホルダーによる平常時および災害時における支援可能性を洗い出し、これまでにない新たな学際研究と社会協働の実践を通して、実効性が高く、かつ当事者のニーズにマッチした個別避難計画の構築とその社会実装を目指す。

研究の具体的な成果・波及効果

仙台市における「仙台市地域防災リーダー（SBL）」をはじめとした実際の制度や枠組に着目して、個別避難計画を策定する上での課題整理を行った。その上で、宮城県医療的ケア児等相談支援センター「ちるふあ」の遠山裕湖センター長や上廣防災学寄附研究部門の高橋利恵子助手らとの連携・協働により、多様な主体の協働による実効性の高い個別避難計画の計画手法の構築に向けた学際交流を実施することができた。その成果は、身近な地域コミュニティのマルチステークホルダーによる平常時および災害時における支援可能性を活かした実効性の高い個別避難計画の社会実装に向けて、今後の波及効果を期待することができる。



成果として発表した論文	
佐藤健：女性が力を発揮するコミュニティ防災教育の推進、令和7年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集、2025. 12、査読無	

学術論文 合計（ 1 ） 編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催、発表			
開催年月日	2025/9/6	開催都市	新潟市
イベント名称	ぼうさいこくたい2025企画セッション	主催者	内閣府ほか
実施概要	企画・運営、ファシリテーターとなり、Misa氏、早坂政人氏（仙台市危機管理局減災推進課）、白鳥綾子氏（新潟医療福祉大学看護学部3年生・東北DMASメンバー）、藤本慎也特任研究員（IRIDeS）の4名でパネルディスカッションを行った。		

合計（ 1 ） 件

被災地、または災害が想定されている地への貢献（国内外）			
実施年月日	2025/12/15	フィールド	横浜市
活動の名称	コミュニティベースの防災推進に関する情報交流		
活動内容	仙台市地域防災リーダー（SBL）が中心となった「せんだい女性防災リーダーネットワーク」と、地域社会の防災まちづくりの推進に取り組んでいる防災塾「だるま」との情報交流を実施し、相互の学び合いができた。		

合計（ 1 ） 件

国際交流			
実施年月日	2026/2/20	相手方機関	ノースカロライナ大学、Seattle Emergency Hubs
交流活動の名称	コミュニティ防災に関する国際交流セミナーを通じた国際交流		
研究者の受入	ノースカロライナ大学の研究者と米国シアトルのSeattle Emergency Hubsの来所にあたり、仙台市地域防災リーダー（SBL）が中心となった「せんだい女性防災リーダーネットワーク」のメンバーとの情報交流を実施した。		

合計（ 1 ） 件

2025年度 災害レジリエンス共創研究プロジェクト

研究課題名	学校におけるリアルタイム防災情報活用モデルの構築～学校版タイムラインによる意思決定と避難行動の高度化～	研究課題	2-HR
研究代表者氏名	桜井愛子	職名	教授
所属機関等	神戸大学		

研究組織（○：災害研担当教員）	
氏名	所属機関名
○ 桜井愛子	山形大学
佐藤健	東北大学
熊谷誠	山形大学
村山良之	東北大学
小田隆史	東京大学
横山 仁	防災科学研究所

期間	2025年6月1日 ～ 2026年3月31日	配分額	
----	------------------------	-----	--

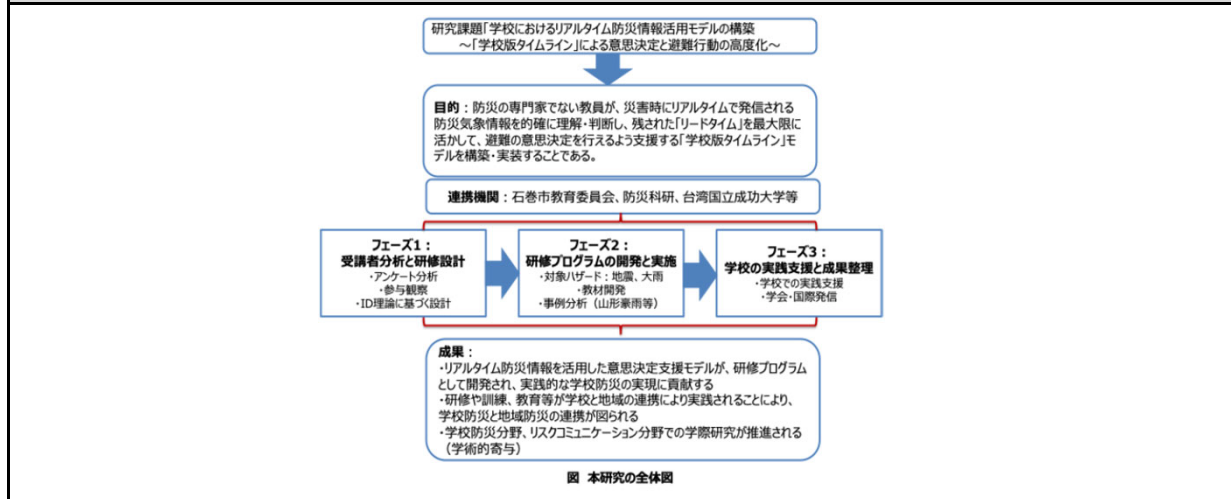
研究の概要

本研究は、要配慮者である子どもが利用する学校において、教員がリアルタイム防災情報を活用し、リードタイムを活かした避難判断ができるよう、「学校版タイムライン」を策定・活用し、避難確保計画、マニュアルや訓練、地域との連携、防災教育と統合したリスクコミュニケーションモデルを高度化した。

研究の具体的な成果・波及効果

昨年度は、教員がリアルタイム情報を活用し、リードタイム内に避難判断を行うための「学校版タイムライン」モデルを構築・実装した。対象ハザードを地震、大雨による洪水、土砂災害とし、山形県北部豪雨災害や酒井市の大雨事例に基づき、児童の「引き渡し」のタイミングを具体的に検討する教材を開発した。石巻市等での研修や協力校での訓練を通じて現場への定着を図り、教員の意思決定能力を向上させた。研究で得られた知見や成果を日本安全教育学会等での発表やJournal of Disaster Research への投稿を通じて行った。

図表



成果として発表した論文
Sakurai, A., Kumagai, M., Murayama, Y., Bisri, M. B., & Sato, T. Operationalizing Updated Tsunami Hazard Assumptions in School Evacuation Planning: Insights from Teacher Training and Implementation Challenges in Japan. <i>Journal of Disaster Research</i> , 21(1), 138-150 (2026).
Takashi Oda, Aiko Sakurai, Takeshi Sato, Chia-Hsin Lee, Chong-Feng Ding, Enhancing Disaster Risk Reduction at School through the Integration of Geographic Information System: Insight from Taiwan's School Safety GIS Platform, <i>Journal of Disaster Research</i> , 20(5), 746-756, (2025), doi: 10.20965/jdr.2025.p0746
小田隆史, 村山良之, 佐藤健, 桜井愛子, 熊谷誠, Integrating Geographic Perspectives in School-based Disaster Risk Reduction: Insights from Japan's Post 2011 Efforts, 日本地球惑星科学連合2025年大会, [HGG03-08], 千葉, (2025)
村山良之・桜井愛子・佐藤健・北浦早苗・熊谷誠・小田隆史, 児童生徒在校時の大雨対応に関する教員研修プログラム開発: 2024年酒田の大雨事例を用いて, 日本安全教育学会第25回岩手大会 (岩手大学), (2025年9月14日)
村山良之・桜井愛子・佐藤健・北浦早苗・熊谷誠・小田隆史, 学校防災の基盤となる災害特性を把握整理する表の提案, 日本地理学会2025年度秋季学術大会 (弘前大), (2025年9月20日)

学術論文 合計 (5) 編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催、発表			
開催年月日	2025/11/19	開催都市	仙台市
イベント名称	令和7年度「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」	主催者	宮城県教育庁・IRIDeS
実施概要	フォーラムの企画・開催・実施・運営 (佐藤)。パネルディスカッション「過去・現在・未来の安全教育」でのファシリテータとして現・元文科省学校安全調査官との震災後の10年を振り返った安全教育の今後について討議 (桜井)		

合計 (1) 件

被災地、または災害が想定されている地への貢献（国内外）			
実施年月日	2025/6/25	フィールド	石巻市
活動の名称	令和7年度石巻市学校管理職研修会		
活動内容	2024年7月の山形県北部豪雨災害の学校対応事例をもとに、児童生徒在校時の引き渡しや下校の判断のタイミングに関する研修を実施。受講者50名。		
実施年月日	2025/8/7	フィールド	石巻市
活動の名称	令和7年度石巻市学校防災フォーラム		
活動内容	原子力災害を想定した学校対応についてのパネルディスカッションでのファシリテーター（桜井）。参加者約100名。		
実施年月日	2025/9/5	フィールド	石巻市
活動の名称	令和7年度第2回石巻市防災主任研修会		
活動内容	管理職研修で実施した山形豪雨の事例をもとに、学校防災主任としてリアルタイム情報を活用した避難のタイミングの判断を行った。受講者50名。		
活動の名称	令和7年度第4回石巻市防災主任研修		
活動内容	該当年度の研修で得られた事後アンケート結果の発表を行い、受講生に対するフィードバックをした。受講者50名。		

合計（ 5 ）件

国際交流			
実施年月日	2026/2/8	相手方機関	IRIDeS
交流活動の名称	RESEARCH WORKSHOP Three Years After the 2023 Kahramanmaraş Earthquakes Insights from the Ground		
研究集会の開催	カフマンマラシュ地震から2周年に併せて開催されたワークショップにおいて、石巻市の学校防災の取り組みを通じた伝承について報告した（桜井）		
実施年月日	2025/4/10	相手方機関	東京大学
交流活動の名称	台湾・日本学術交流セミナー		
学術交流・打合せ	台湾教育部、台南大学等の学校防災の政策と実践に関する実務者並びに研究者30名に対して、石巻市での教員研修に関する報告を行った（主催小田・報告桜井）		

合計（ 2 ）件

2025年度 災害レジリエンス共創研究プロジェクト

研究課題名	特別支援学校を対象とした防災教育と防災管理の高度実践に基づくインクルーシブ防災の推進	研究課題	2-C0
研究代表者氏名	小田 隆史	職名	准教授
所属機関等	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻		

研究組織（○：災害研担当教員）	
氏名	所属機関名
○ 佐藤 健	東北大学災害科学国際研究所防災実践推進部門防災教育実践学分野
永田 俊光	気象庁新潟地方気象台
木村 玲欧	兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科
小林 優子	上越教育大学発達支援・心理臨床教育学系発達支援教育実践研究コース
野住 明美	新潟大学人文社会学系大学院教育実践学研究科
横山 仁	国立研究開発法人防災科学技術研究所

期間	2025年6月1日 ～ 2026年3月31日	配分額	498,000 円
----	------------------------	-----	-----------

研究の概要

本研究は、特別支援学校において7年間にわたり継続的に実施されてきた防災教育（栃木）の実践と継続的評価、およびバス通学の安全性向上に向けた防災管理（宮城）の実践を通じて、障害のある児童生徒の安全と自立を支える持続可能なインクルーシブ防災モデルの構築を目指す。

研究の具体的な成果・波及効果

栃木盲学校・今市特別支援学校において緊急地震速報を用いたショート訓練を実施し、長期継続実践の実態把握のため、教員による児童生徒の行動評価を同一枠組みで行い、評価記録を蓄積した。併せて、評価記録を回収・整理し、障害の程度区分および障害の種類に基づく分析に向けたデータセットを整えた。防災教育の取組は、ぼうさいこくたい・大学シンポ等で情報発信し、関係者と共有した。また、宮城（気仙沼）の広域通学における通信確保に向け、デジタル簡易無線等の整備にあたり、県・学校関係者と協議を重ね、運用に向けた支援と課題整理を行った。本年の成果から、被災地校への防災教育の導入可能性と、広域通学の安全管理の示唆が得られた。

図表

地震防災教育プログラム — 緊急地震速報を利用した対応行動訓練 —

栃木盲学校の実践		今市特別支援学校の実践	
 訓練（小学部）	 訓練（小学部）	 事前学習（小学部）	 訓練（小学部）
 訓練（高等部）	 行程避難	 訓練（中学部）	 訓練（高等部）



ADDIE model

成果として発表した論文
Takashi Oda, Aiko Sakurai, Takeshi Sato, Chia-Hsin Lee, Chung-Feng Ding: Enhancing Disaster Risk Reduction at School Through the Integration of Geographic Information System: Insights from Taiwan's School Safety GIS Platform Journal of Disaster Research 20(5) 746-756 2025年10月1日

学術論文 合計 (1) 編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催、発表			
開催年月日	2025/6/28	開催都市	新潟市
イベント名称	令和7年度学校安全教育指導者研修会	主催者	新潟県教育委員会
実施概要	県教育委員会が主催する教員を対象とした学校安全指導者研修の講師として、「学校における防災教育・防災管理の効果的な推進」のタイトルで講演し、特別支援学校における防災教育の実践検証及び継続調査に関して解説した。		
開催年月日	2025/9/7	開催都市	新潟市
イベント名称	ぼうさいこくたい2025in新潟セッション	主催者	内閣府
実施概要	防災教育チャレンジプラン実行委員会のセッションにおいて、「マルチハザード対応の防災教育」のタイトルで基調講演 とパネルディスカッションに登壇し、特別支援学校における防災教育の実践検証及び継続調査に関して解説した。		
開催年月日	2025/11/28	開催都市	横浜市
イベント名称	関東学院大学人間共生学部10周年記念シンポジウム	主催者	関東学院大学
実施概要	「災害研究成果をどう教育場で生かすか〜地震防災教育の視点から〜」のタイトルで講演とパネルディスカッションに登壇し、特別支援学校における防災教育の実践検証及び継続調査に関して解説した。		

合計 (3) 件

被災地、または災害が想定されている地への貢献 (国内外)			
実施年月日	2025/12/8	フィールド	仙台市
活動の名称	事前の協議 (災害研)		
活動内容	小田、佐藤、永田が対面にて、これまでの研究進捗の確認を行い、主に、気仙沼地域での実装、展開に関して協議を行った。		
実施年月日	2025/12/10	フィールド	気仙沼市
活動の名称	協議 (教育委員会)		
活動内容	佐藤が、宮城県教育庁特別支援教育課と通信機器の設置、制度に関する協議を行った。		
実施年月日	2025/12/10	フィールド	気仙沼市
活動の名称	懸念事項の整理 (気仙沼支援学校)		
活動内容	佐藤が、気仙沼支援学校と通信確保実現に向けた懸念事項について整理、協議を行った。		
実施年月日	2026/1/16	フィールド	気仙沼市
活動の名称	気仙沼支援高校との調整 ZOOM会議		
活動内容	小田、佐藤が、気仙沼支援学校校長ほか管理職、防災担当と、今後の体制整備について詳細な調整と合意形成を行った。		
実施年月日	2026/2/18	フィールド	気仙沼市
活動の名称	気仙沼向洋高校との調整		
活動内容	佐藤が、宮城県気仙沼向洋高校と、今後の連携、検証に関する協議を行った。		

合計 (5) 件

2025年度 災害レジリエンス共創研究プロジェクト

研究課題名	特別支援学校における個別避難計画作成状況についての全国調査	研究課題	2-C0
研究代表者氏名	高橋利恵子	職名	助手
所属機関等	東北大学 災害科学国際研究所 上廣防災学寄附研究部門		

研究組織（○：災害研担当教員）	
氏名	所属機関名
○ 高橋利恵子	東北大学 災害科学国際研究所 上廣防災学寄附研究部門
菅井裕行	宮城教育大学 大学院教育学研究科 高度教職実践専攻

期間	2025年6月1日 ～ 2026年3月31日	配分額	300,000 円
----	------------------------	-----	-----------

研究の概要
<p>全国の教育委員会へのアンケート調査から紹介のあった特別支援学校へ半構造化インタビューを行い、個別避難計画に関する行政と特別支援学校との連携および個別避難計画の先進的な取り組みを明らかにする。</p> <p>特に個別な配慮が必要とされている児童生徒が多く在籍する特別支援学校において、既存の「個別の教育支援計画」の中に「個別避難計画」項目を挿入するなど、実現可能な形での作成を促す手ごかりを追求する。</p>

研究の具体的な成果・波及効果
<p>すでに行政と連携して「個別避難計画」を作成しようとしている、または既存の「個別の教育支援計画」を基に「個別避難計画」を作成している特別支援学校が複数確認された。被災時の個別対応に関しては、独自のシステムや教職員の創意工夫といった個別の配慮に支えられている実態が明らかになった。一方で、視覚障害や肢体不自由など避難時間を要する障害種別の特別支援学校の中には海から近く海拔も低い学校が存在している。学校の自助努力だけでは補えない「制度・地理的課題」が浮き彫りとなった。次年度以降、全国的な立地リスクを数値化したデータを作成・回付し、今回の調査で判明したインフラ整備 に対する要望と好事例と共に行政側の主体的関与の必要性も併せて発信していく。</p>